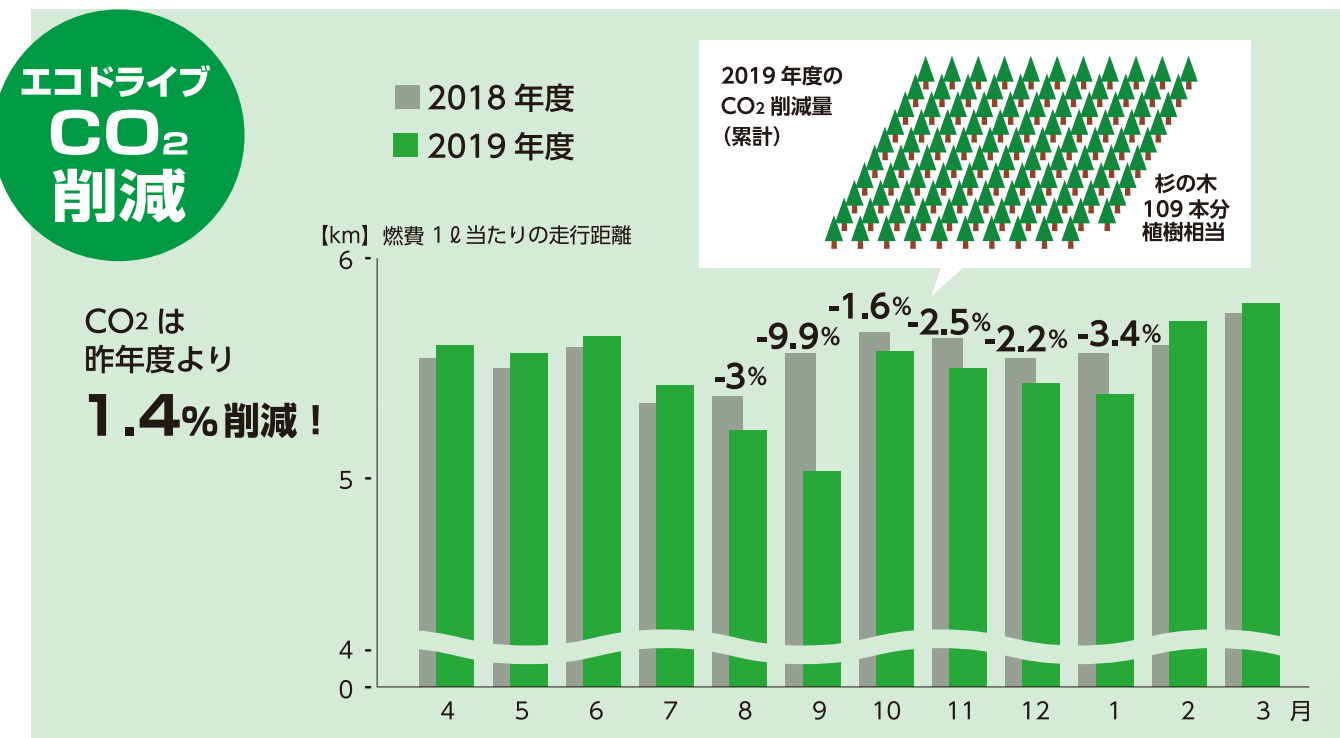
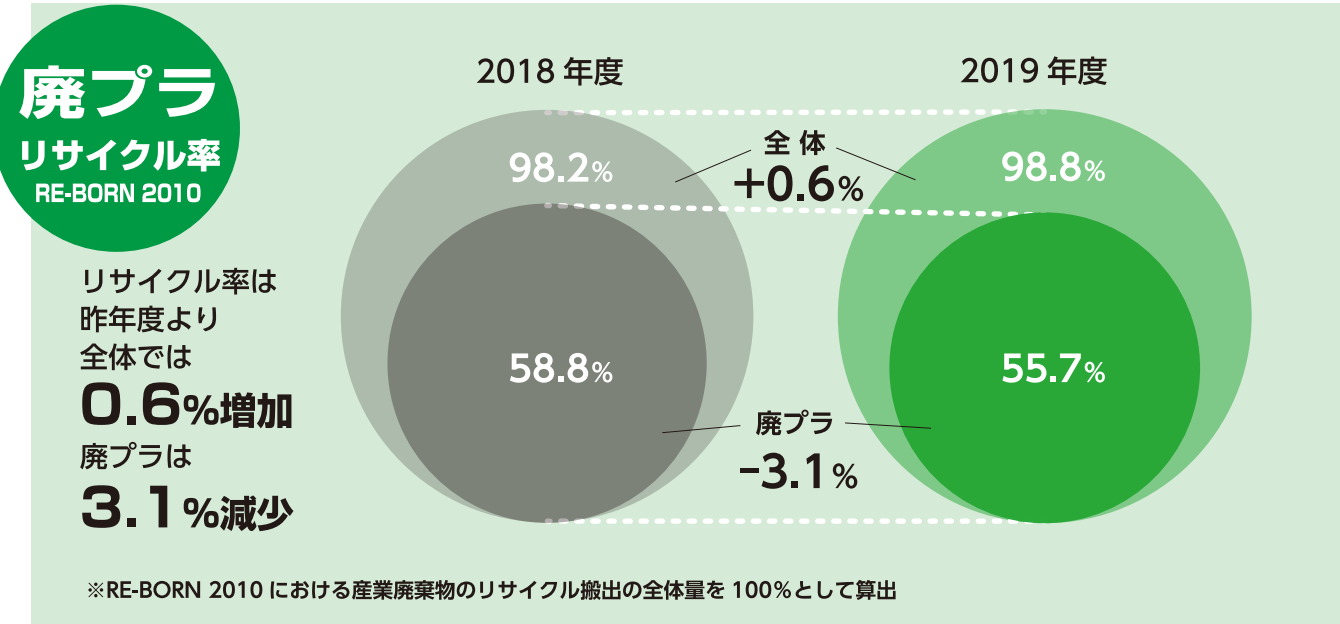


## 2019 年度 大谷清運(株) 環境配慮への取り組み推移



あなたの環境をECOに繋げるお手伝い  
**大谷清運株式会社**  
Otani Seiun  
フリーコール **0120-965-554**



〒125-0032 東京都葛飾区水元1-3-13 TEL.03-3600-5561 FAX.03-3600-5563  
E-mail/info@otaniseiun.com http://www.otaniseiun.com

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

**280**  
古紙パルプ配合率80%再生紙を使用

リサイクル適性 (A)  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

## CSR REPORT 2019

# 働き続ける会社 大谷清運

Vol.4







Otani Seibun

代表取締役社長 二木玲子インタビュー

INTERVIEW WITH THE PRESIDENT

気候変動やプラスチック問題など人間の経済活動で  
様々な影響が懸念される中、社会は急速な対応を迫られている。  
そのような新たな時代における大谷清運(株)について  
社長・二木玲子が語る

### 廃棄物処理業者の経営者としての責任

大谷清運(株)の創業者である私の父を通して経営者というものを幼い頃から見てきました。父が常々言っていたのは、「1人のスタッフを雇っていたら、その人には家族がいる。だから、企業や経営者には雇っている人数の3倍も4倍もの責任がある」ということです。私がこの会社の社長になるとは私も含めて誰も思っていなかった頃から、そうした教えは私の“心”として在り続けています。スタッフ一人ひとりには人生の大切な時間を大谷清運(株)のために使ってくれています。その中で、「この会社で働いてよかった」と思ってもらえるような、日々働く中でスタッフがそれぞれ成長していける企業でありたいと思っています。

### 社員の意識を向上させるために必要なことは

大谷清運(株)が掲げるのは「真心込めて愛ある丁寧な仕事」です。お客様に対しては、自分の家族のように真心を込めて接してほしいと思っています。マザー・テレサは「愛の反対の言葉は無関心である」と語ったそうです。ならば、愛ある丁寧な仕事の「愛」とは誰であれ自分のまわりの人や状況に関心を持つことになります。この会社で働くすべてのスタッフが意識を統一していくことが必要になってくると思います。関心を持つという点では、私たちが生かされている地球環境に対しても関心を持っていきたいと思っています。これから何世代も後の人々もこの地球に住んでいけるような世界にする必要がある、そういったことをスタッフに伝え、プライドを持ってほしいのです。その地球環境を護るための戦士として、OTANIマンでありOTANIエンジェルなのです。

### 持続可能な社会の在り方を模索する中での大谷清運(株)の今後の展望

今は世の中が劇的に変わってきている時代だと感じています。人間は何も持たずに生まれてきて何も持たずにこの世から去っていくのですが、その間には様々なモノと関わりながら生きていきます。私はそうした多くの「モノ」に関心を抱いていますが、その中でも最も問題意識を持っているのはプラスチックごみです。海洋プラスチックの問題が社会的に大きな話題となっていますが、ビニール傘について新たな動きを始められないか社内で検討しています。コンビニで買った1本の傘でも、1回使っただけですぐ捨ててしまうのか長く使うのか。同じエネルギーと資源を使って作るモノでも、何度も使えばその役割を最大限に発揮することができます。大谷清運(株)としては廃棄物が大量に出た方が儲かるかもしれませんが、使い終わったものを何らかの形でもう一度命を与えるようにしていきたい。それが当社の使命のような気がしています。

※社長の持つ傘……江戸時代、享保6(1721)年創業、日本のビニール傘の草分けであるホワイトローズ社の透明傘。丈夫な作りで安全にもしっかり配慮された設計の高級な「一生モノ」のビニール傘。



これから何世代もの人々が安心して  
この地球に住んでいけるような  
自然環境にしていく使命がある

代表取締役社長  
二木 玲子

本社前の公園にて



# 暮らしを支えるペットボトル処理

2019 年度末に稼働を開始した RE-BORN2018。  
主に墨田区の一般家庭から回収されたペットボトルを圧縮梱包する中間処理を担う  
この工場における廃棄物処理について語る。



## 気遣いで築く近隣との関わり

廃棄物処理施設というものは一般の方から見ると  
迷惑な施設と捉えられがちです。そのため、近隣の  
方々へなるべく迷惑をお掛けしないように消臭のオ  
ゾン発生器の作動や入口シャッターのこまめな開閉

など臭いや騒音には特に気を遣いながら作業を行っ  
ています。また、地域住民の方々への挨拶をしたり、工  
場の隣の敷地も清掃するなど、小さなことですが地域  
との関わりを持たせてもらっています。

## 安全で確実な仕事は危険予知と念入りの情報共有から

一般的に言われていることですが、作業の中で次は  
どのような状況になるのかを予め考える危険予知が  
安全対策の上で大切になってきます。RE-BORN2018  
ではペットボトルなど回収した廃棄物の積み降ろし  
を行うために車両が工場内を出入りしますが、その際  
は特に注意しています。例えば車両の動く先に何か物  
があったら移動させるなど、その車両の動線を常に考

えながら作業しています。フォークリフトに乗るス  
タッフには、どこに他のスタッフがいるか分からない  
のでいつも周りを見て行動するように伝えています。  
情報を伝える時には、確実に伝わるような工夫をして  
います。1回の指示を確実に覚えてもらうことは難し  
いので、タイミングを見て何回か業務上の注意を伝え  
るようにしています。

## 脚光を浴びずとも街の清潔を保つことが私たちの役目

私たちの行う廃棄物処理業は社会の中で目立つよ  
うな仕事ではありません。一般の方々は自分の出した  
廃棄物がどのように処理されていくのか、それを気に  
することはあまりないのではないかと思います。それ  
でも、誰かが廃棄物処理を担わなければ社会が成り立  
たなくなります。今回の新型コロナウィルス感染症に

より、エッセンシャル  
ワーカーである私  
たちの仕事も注目さ  
れました。その一員  
である事に誇りを持  
つ事ができました。

## 緊急事態を乗り越えるには無理をしない

この工場では処理を担当している墨田区のペッ  
トボトル回収はどんな状況でも休まずに行われま  
す。そうした廃棄物を確実に処理していくため、受  
け入れる側も常に業務が行えるようにスタッフの  
手洗いやマスク着用と手指の消毒の徹底をして体

調を整えています。  
また、疲労などから  
思わぬ災害につな  
がりかねないので無理なスケジュールで作業をし  
ないよう心掛けています。

INTERVIEWEE ▼



環境事業部  
RE-BORN2018 工場長  
森 幹夫



大谷清運(株)が社会を清掃するのは業務においてだけではない。  
各事業所が機会を設けて会社の内外の美化を行う  
環境整備活動について、環境整備隊の3人が語る。

## 気づき、考え、行動する

### 環境整備デーを行う中で見えてきた企業の社会的役割とは

弊社は各事業所において、環境整備活動という取り組みを行っています。これは、普段使わせてもらっている事業所の周辺地域や会社の内部を清掃することで、少しでも周りの方々に悪い影響を与えないようにという観点から行っているものです。各事業所で行うタイミングは異なりますが、毎月一度の「環境整備デー」を設けたり、毎日欠かさず清掃を行っている事業所もあります。

本社で行っている月に一度の環境整備デーでは、2人から3人でチームを組んで自分たちで会社の敷地の内外で清掃するポイントを決めて環境美化の活動を行っています。その中で、大谷清運(株)が大切にしている「気づき、考え、行動する」という理念を実行するように励んでいます。どこが汚れているのか気づき、どうすれば綺麗になるのかを考えて行動するという事です。この環境整備デーが、その3つの力を養う機会となっています。また、清掃の際にコミュニケーションを取りながら行動することで、普段話さない人とも交流をするきっかけともなっています。

環境整備で会社の内外を綺麗にすることで、地域の方や通りがかった方から見た大谷清運(株)の印象が良くなるという

#### INTERVIEWEE ▼▼▼



ホテルニューオータニ  
幕張営業所副支社長  
神戸 裕行



経営管理部  
小野田 晃嗣



経営管理部  
黒澤 彩野

こともあります。特に会社の入り口が汚れていたりゴミが落ちていたりすると会社の印象が悪くなるので、そこがマイナスにならないということだけでも大きなことです。また、会社の中も清掃したり書類整理などを行うことで窓から見た会社の内部という印象も良くなります。環境整備をしている時に地域の方から声をかけてくださることもあるので、会社と地域の方の交流という側面もあります。

会社の周辺を清掃していたスタッフが、地域の学校で使うパスケースを見つけたこともありました。個人情報の記載されている大切なものだったので、事務所にいた人たちとで相談して、学校の方から連絡をしてもらって無事にお届けできました。落ちていたものをただゴミだと思って漫然と捨ててしまうのではなく、よく観察してそうした変化に対応できたことで、少しでも地域のお役に立てたのかなと思います。

ホテルニューオータニ幕張営業所においては、日ごろから朝の時間などを使って共用部分の清掃を行っています。ホテルの従業員さんをはじめ多くの人々が使う部分になるので、そこを綺麗に清掃することで大谷清運(株)の仕事をアピールできていると考えています。

### 環境整備のあゆみ



環境整備 100 回記念 (2016.2.13)



本社外壁ペンキ塗り (2017.11.11)



本社 2 階会議室カーペット敷き (2017.1.21)



本社運輸課休憩室ロッカー入替  
(2018.7.13~14)





廃棄物回収の最前線に立ち、  
持続的な社会を支える仕事を担う運輸課。  
その仕事や、社会の中での責任を語る。

## 安全と信頼を載せて運ぶ

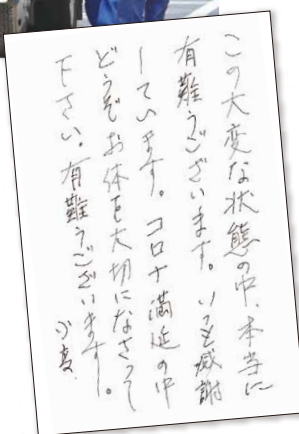


### 必ず仕事をするということ

私たち運輸課は、廃棄物・資源物を回収して運搬する業務を担当しています。社会の中で、廃棄物の収集運搬という仕事はあまり目立たないものかもしれませんが、しかしこの仕事は、誰かが行わないと街がごみで溢れかえってしまうため、とても大切なものだと思自負しています。今年度が終わろうかという時期に、新型コロナウイルス感染症の流行が始まりましたが、マスクの着用を徹底するなど感染予防対策を行いながら、普段と変わらずに廃棄物を回収しました。いつもはごみの集積所で待っていて下さり会話をする地域の方も自粛により見かけなくなりましたが、代わりに労いのお手紙を頂きました。自分たちの仕事を誰かが見ていてくれると思うと感激します。近年はエッセンシャルワーカーという言葉が一般的になってきましたが、運輸課を表現するのにぴったりな言葉だと思います。2019年度は秋に台風がやってきて都市活動の多くが止まりましたが、それでも私たちの仕事は止まりません。天候が荒れることが予想された



ので普段より早く出社するなどして対応し、すべての車が無事に帰ってくることができました。大変な仕事ですが、自分たちの果たすべき役割を成し遂げることができた時の充実感、何物にも代えがたいものがあります。



一部のお手紙

### 頼れる仲間がいるチーム OTANI

運輸課のスタッフは皆がその日の仕事に向けて万全の備えをしています。どうしても体調不良などで急に休まなければいけない時もあります。そのような場合にも、ベテランのスタッフが待機しておりチームOTANIとして助け合ってカバーできるような態勢で日々臨んでいます。大谷清運のスタッフは家族のようだと感じることがあります。長く会社に在籍しているうちに、ま

### INTERVIEWEE ▼▼▼▼



運輸課 課長  
湯浅 誠一



運輸課 班長  
小松崎 稔



運輸課 班長  
古田 勝



運輸課  
阿部 直也



運輸課  
富安 達也

るで親戚のように互いを気にかけて行動し、相手のことをよく知って信頼することができる仲になっていくのです。当社の掲げる「真心込めて愛ある丁寧な仕事」を実践するためには、自分の役割である業務に対して真摯に向き合う必要があります。それをきちんと行うスタッフは、誰からも信頼される立派な人材となることができま。頼れる仲間が多くいる環境に身を置くことで、自分自身も大きく成長するのではないのでしょうか。右も左も分からないような新しく入ってきたスタッフも、ベテランの先輩たちが日々の業務の中で指導していくことで、やがて頼もしい一人前のスタッフに育っていきます。

### 車両を使う者の責任

運輸課は言うまでもなく、車両を使うことが業務の根幹です。そうした仕事にどうしても付きまってくる問題は交通事故です。いくら業務に慣れたドライバーでも、事故を起こしてしまっは会社の信頼まで損ねることになってしまいます。車両を使う企業の社会的責任として、交通事故を起こさないために毎月の交通安全講習会に加えて、当社では、ドライブレコーダーを活用して実際の業務の様子を確認し、急減速や急発進などがあれ

ば危険な運転として月に一度のミーティングで運輸課のスタッフ全体に共有し、このような運転を無くすように呼びかけるトライエス活動を実施しています。運転するスタッフにとっては、常に見られていると意識しながら車両に乗ることで、安全な運転を心掛けるようになります。実は、このような運転は、事故を減らすだけではなく、燃費の向上ということで環境にも優しい運転でもあります。ハイブリッド車やCNG車といった低公害車の導入といった対策と合わせて、二酸化炭素の排出量を抑え環境保護に貢献することが運輸課としての社会的貢献のあり方ではないかと考えています。





大谷清運(株)の中で、産業廃棄物を専門に処理する工場として稼働しているのがRE-BORN2010である。リチウムイオン電池等の危険物も混入されてくる中で、どのように安全な処理を行っているのかを語る。

## 确实で的確な産廃処理



### 街中の処理施設として必要な対策

このRE-BORN2010を含め、大谷清運(株)の中間処理施設が位置する足立区の入谷地区は、多くの廃棄物処理施設が集まっているエリアです。しかしここは、東京湾の埋め立てエリアのように工場だけがあるわけではなく、一般の住宅地のすぐ近くに処理施設が立ち並んでいます。そのため、住民の方に迷惑をかけず安定的に工場を稼働させるためには、通常の処理施設より工場があることによる迷惑を無くす対策を強化する必要があります。これは、工場を建てる際の建設合意書でもお約束していることです。具体的には、車両の走行は午前9時から午後5時まで、作業時に発生する音を最小限に抑える、住宅地側の換気扇の使用をしない、朝礼後の工場周囲の清掃、環境整備の実施などです。自分自身がこの地域に住んでいるとしたら、工場に対してどのように考えるだろうか……と想像することで、より地域の方々の目線から対策を実施するようにしています。また、近隣の方々とは顔を合わせた時に挨拶させてもらうだけではなく、小さなことでも工場の情報をお伝えして、その方の不安な気持ちを払拭できるように努力しています。

### 危険物も処理する工場

RE-BORN2010について住民の方が心配されている理由の1つとしては、実際に危険物が混入されている工場だからということもあります。産業廃棄物を処



理する施設であるRE-BORN2010は、プラスチック製品やビニール、紙製品といった比較的安全なものの他に、金属製品やガラス製品なども搬入されます。また、乾電池やバッテリーなどが混入していることもあります。これらのものは破砕機に投入してしまうと発火するためお客様に廃棄物に混ぜないようにお願いをしているほか、スタッフが手作業で搬入された廃棄物をチェックして危険物を取り除いています。工場ではフォークリフトやユンボといった重機で搬入された廃棄物を移動させますが、バイクや石油ストーブなどは重機で動かす際に火花が散りやすい上、中に燃料が残っていることもあるので特に気を遣います。

### 見えない危険にも対応する

2019年度終盤には新型コロナウイルス感染症が広まりを見せてきましたが、この工場では誰がどのように使ったか分からないものを扱うので、一見すると危険そうに見えないものを扱う時でもスタッフはマスクと手袋を必ず着用し、手先の怪我や病気への感染が起こらないよう対策をしています。特に、病院から持ち込まれた廃棄物を扱う時にはなるべく重機を使って移動させるなど間違っても素手で触れないように気を付けています。また、スタッフの距離感を以前より気にするようになり、結果としてどこに人がいるのかを把握して作業をすることで重機などを操縦する時にも安全な環境になったかと思っています。



### 普段の暮らしを守るために

このように危険なものを処理する現場だからこそ思うのは、「もし産業廃棄物が適切に処理できなかったら、世の中はどうなってしまうのだろうか」ということです。ものを使い終わったらただ捨ててしまう大量廃棄の時代は終わり、現代は再利用によって新たな資源の使用を抑制する持続可能な循環型社会を形成することが重要になっています。プラスチックを破砕処理することで容積を減らし扱いやすくすることや、紙と木くず、プラスチックを細かく砕いて圧縮した燃料であるRPFの製造をこのRE-BORN2010では手掛けています。「普通の綺麗な街」がこれからも保たれるために、私たちは怠ることのできない重要な仕事をしていると考えています。

#### INTERVIEWEE ▼▼



環境事業部  
RE-BORN2010 工場長  
小林 一則



環境事業部  
RE-BORN2010  
大野 孝博



大谷清運(株)にとって最初のリサイクル施設であるRE-BORN2000はどのような業務を行い、社会に貢献しているのか。その役割と責務について語る。

## プラスチック選別の最前線



INTERVIEWEE ▼



環境事業部  
RE-BORN2000 副所長  
霜鳥 裕一

### 社会を支える縁の下の力持ち

このRE-BORN2000では、一般家庭から排出されたプラスチックごみの中から、容器包装プラスチックという容れ物や包装として使われているプラスチックを選別して圧縮梱包する作業を主に行っています。この選別という過程はとても重要です。資源としてプラスチックをリサイクルしようとする際に、可燃物や汚れのついたプラスチックが混ざっていると純度が低くなってしまい上手くりサイクルすることができません。循環型社会を形成する上では、回収された資源を利用可能な形に整える作業が必要です。回収されてきた袋から中身を取り出し、再利用できるプラスチックのみを選別していく作業は、乾電池などの危険物を確実に取り除くことが求められるため、すべてスタッフが手作業で行っています。プラスチックを排出した一般の方々が直接目にする現

場ではありませんが、限られた化石燃料の使用量を抑えて何世代も後まで綺麗な地球を残すために欠かせない現場と言うことができます。

### 地域に優しいリサイクル施設

業務内容は一般の方々から注目されにくい工場ですが、毎日100台ほどの車両が出入りして稼働するため、どうしても騒音や臭いといった公害が起きるのではないかと懸念されてしまいます。環境問題に取り組む工場が、逆に悪影響を与える迷惑施設になってはいけません。RE-BORN2000では年に2回の定期的な検査によって臭気や騒音が環境基準をクリアするようにチェックしているほか、毎朝スタッフが工場の敷地と周囲の路上を清掃してごみが残らないようにしています。また、地域の方々との交流という点ではむしろスタッフが外に



積極的に出ていき活動するようにしています。また地域の町内会で毎年行われる盆踊りでは、必ず会社として協力させてもらい、スタッフが会場の設営や片付けなどにも参加して、近隣地域の皆さんと良好な関係を築いています。

### 安全な工場であるために

リサイクルを行う工場の責務として、周囲に悪影響を与えないようにすることも大切ですが、事故の起こらない安全な工場であることもまた大切です。プラスチックの搬入にやってくる100台ほどの車両の合間を縫うように、機械にリサイクルするプラスチックを投入したり、選別され梱包されたプラスチックを移動させるフォークリフトが走り回っています。このフォークリフトを操縦する人たちは月に一度集まり、業務の中で危なかった点などを挙げて再発防止に努め、より安全な工場になるよう工夫しています。また、日々の業務の中で事故に繋がりそうな場面を目撃したら、その場で注意するほか、朝礼と終礼の際にスタッフ全体に周知するなど情報共有を徹底しています。



### 緊急事態に立ち向かう

安全性を保ちつつ、社会の中で欠かせない業務を止めないようにするためには、常に化する状況へ対応を続けることが肝心です。台風などにより天候が悪化することが予想される時には、帰れなくなるかもしれない公共交通機関で出勤するスタッフは自宅待機にして、残りのスタッフで工場を稼働させました。作業の目処が立ったラインから業務を切り上げて帰宅してもらい、最後の搬入車両が帰った直後に全体の稼働を終えることができました。また、新型コロナウイルス感染症の対策では、スタッフの間で感染が起きないようにするため、当社の他の部署から応援のスタッフを呼んだ上で、昼休憩は少人数ごとに取ってもらうようにして休憩室が過密をさける措置を講じました。社会の危機的な状況を乗り越えるため、チームOTANIは丸一となって困難に立ち向かい、循環型社会を支え続けます。



## 使う者の責任を広めるために



ホテルニューオータニ様での分別講習会

近隣の小学生を対象とした環境学習

大谷清運(株)には、モノを大切に作る精神、モノとの関係の見直しの啓発を高める役割として、企画事業部リスリムがあります。リスリムでは毎年、分別講習会や、小学4年生対象の環境学習の開催、お客様対象のセミナーのデータなどの作成を通じて小学生から、大人までの幅広い対象の方の分別方法や資源化の理解を促進させるお手伝いをしています。



ペットボトルのリサイクル啓発のため行政と連携し、オリジナルのポスターを作成。



## CSR レポートを制作して

大谷清運(株)に入社して初めての仕事がこのCSRレポートの作成となり、この会社がどのような業務を行っているかを知るために各現場で研修をさせてもらった。廃棄物の回収から中間処理まで、持続可能な社会を未来へ繋ぐために欠かせない役割を果たしているということが理解できた。車両を多く使用していることから交通安全や環境への配慮をする、処理施設が近隣の迷惑とならないよう対策を徹底するなど、社会的な立ち位置にふさわしい在り方を追求している企業だと感じることができた。これからも真心込めて愛ある丁寧な仕事を提供する大谷清運(株)の一員 OTANI マンとして社会に貢献していきたい。

令和2年度入社 営業企画部 吉田 大起 加賀山 黎



吉田 大起 加賀山 黎

## 第三者からの評価コメント



文京学院大学  
人間学部  
コミュニケーション社会学科  
中山 智晴 教授

「まちラボプロジェクト」で産学連携させていただいた文京学院大学の中山智晴教授に、2019年度のCSRレポートのコメントと評価をいただきました。

一般的に「環境ビジネス」とは、産業活動を通じて、自然環境の破壊抑制、資源の有効利用などに役立つ製品やサービスを提供したり、社会経済活動を環境配慮型に変えていく上で役立つ技術やシステムを提供する事業を指す。大谷清運株式会社は、この枠を越え、国連グローバル・コンパクトの10原則を遵守するとともに、ローカルSDGsビジネスへと社内が一致団結し邁進しているように思える。

ローカルSDGsビジネスとは、地域の環境保全とのバランスをとりながら、地域の資源を持続可能な形で賢く活用するビジネスのことである。ローカルな地域における環境課題と社会課題の解決に向け統合的に取り組む大谷清運株式会社のビジネス方針は、今後、国連の提唱するSDGsへの貢献をも視野に入れたグローバルな取り組みへと進化していくことを期待させる。

SDGsでは、企業が得意なビジネス領域を用いて、社会課題を解決することに期待している。

つまり、社会課題の解決と自社の強みや事業内容を結びつけやすい点がCSRと異なる点である。また、社会課題をビジネスで解決することを目指せば、新規市場の開拓や事業機会の創出につながっていく可能性もある。

これからの大谷清運株式会社が目指すべく方向性、それは一重に「社会価値と経済価値を同時に実現する」新たなビジネス創造なのではないだろうか。

評価項目	評価	好意を抱く点	改善を望む点
人 権	3/3 点	・労働者、コミュニティとの良い関係の構築 ・子どもへの環境教育の提供	・特になし
労 働	3/3 点	・あらゆる部門の社員が連携し労働環境や地域環境の改善に努めている点	・特になし
環 境	3/3 点	・責任を率先して引き受ける姿勢 ・環境にやさしい技術の開発と普及	・リサイクル率などは数値目標を掲げ、その達成状況を評価 ・改善する環境マネジメント的手法を取り入れるとよい。
腐敗防止	3/3 点	・幅広い倫理的価値観と誠実性	・特になし

3 点満点中



SDGs … Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標とは貧困や不平等・格差、気候変動などのさまざまな問題を解決すべく世界各国が合意した17の目標です。大谷清運(株)ではすでにSDGsの理念を仕事や価値観に取り込んでおり持続可能な社会への貢献に積極的に取り組んでいます。



## 文京学院大学 まちラボ紹介



2019.11.27工場見学・解体体験  
熱心にビニール傘の分解を見学する  
学生たち

企業と大学生が共同で行う産学連携学習として、文京学院大学と2019年4月より「まちラボプロジェクト」を開始しました。この中ではビニール傘のリサイクルをテーマとして10名の学生の方と学内におけるビニール傘の消費意識アンケートやビニール傘回収プロジェクトなど様々な取り組みを行いました。また、RE-BORN2010に学生の方が来ていただき、実際にビニール傘の解体作業を体験していただくことで、その構造やリサイクルの流れについて理解を深めてもらいました。これらを踏まえて、2019年11月には「文京エコリサイクルフェア」に出展し、ビニール傘の歴史や学生独自のリサイクルのアイデアを伝えました。



2019.10.19～20文京学院大学 文京祭  
ビニール傘に絵を施す区民